

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年11月8日

【四半期会計期間】 第34期第2四半期（自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日）

【会社名】 東京エレクトロン デバイス株式会社

【英訳名】 TOKYO ELECTRON DEVICE LIMITED

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 徳 重 敦 之

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市神奈川区金港町1番地4

【電話番号】 045-443-4000（代表）

【事務連絡者氏名】 財務部長 田 中 弘 毅

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市神奈川区金港町1番地4

【電話番号】 045-443-4000（代表）

【事務連絡者氏名】 財務部長 田 中 弘 毅

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第33期 第2四半期 連結累計期間	第34期 第2四半期 連結累計期間	第33期
会計期間	自 平成29年4月 1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年4月 1日 至 平成30年9月30日	自 平成29年4月 1日 至 平成30年3月31日
売上高 (百万円)	76,431	68,765	159,841
経常利益 (百万円)	983	1,390	2,637
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	699	894	1,598
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	604	1,021	1,522
純資産額 (百万円)	23,766	25,059	24,401
総資産額 (百万円)	82,054	77,568	86,478
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	69.31	88.21	158.22
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	28.3	31.6	27.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,473	12,718	7,993
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	759	1,767	896
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	4,894	10,744	9,869
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	3,097	3,619	3,406

回次	第33期 第2四半期 連結会計期間	第34期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年7月 1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年7月 1日 至 平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	40.14	52.05

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容に重要な変更はありません。なお、主要な関係会社の異動は、次のとおりであります。

### （半導体及び電子デバイス事業）

平成30年7月に、当社は連結子会社であるパネトロン株式会社を吸収合併いたしました。また、同月に当社は株式会社ファーストの株式を取得し、連結子会社といたしました。

### （コンピュータシステム関連事業）

該当事項はありません。

以上の結果、当社グループは平成30年9月30日現在、当社、子会社8社、関連会社4社及びその他の関係会社1社から構成されております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の拡大を背景に雇用・所得環境が改善する中、緩やかな回復が続いてまいりました。一方で、米中貿易摩擦の影響や中国経済の成長鈍化により、世界経済の下振れが懸念されるなど、先行きは不透明な状況となっております。

当社グループにおける当第2四半期連結累計期間の業績については、主要取引先との販売代理店契約解消の影響等により売上高は687億6千5百万円（前年同期比10.0%減）となったものの、平成29年7月に連結子会社となった株式会社アパール長崎の業績が期首より加わったことや、ストレージ関連機器の販売が好調に推移したことなどから、営業利益17億1百万円（前年同期比69.0%増）、経常利益13億9千万円（前年同期比41.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益8億9千4百万円（前年同期比27.8%増）となりました。

当社グループにおける報告セグメントに係る業績については、次のとおりであります。

#### （半導体及び電子デバイス事業）

平成29年11月1日に公表した主要取引先との販売代理店契約解消による取り扱い製品の減少等により、当第2四半期連結累計期間は売上高596億5千3百万円（前年同期比12.9%減）となったものの、相対的に利益率の高い製品の販売が産業機器・自動車関連向けに堅調な推移となったことなどから、セグメント利益（経常利益）は8億8千2百万円（前年同期比27.7%増）となりました。なお、株式取得によって平成30年7月から株式会社ファーストが連結子会社となっており、同社の業績等は半導体及び電子デバイス事業に含めております。

#### （コンピュータシステム関連事業）

データセンター市場においては、データ処理量の増加やIoT（モノのインターネット）の普及等により、これらに対応するための設備投資が増加傾向で推移しております。当社では金融機関、官公庁及びデータセンター事業者向けの製品販売が好調に推移し、当第2四半期連結累計期間は売上高91億1千1百万円（前年同期比14.4%増）、セグメント利益（経常利益）5億8百万円（前年同期比74.0%増）となりました。

当第2四半期連結会計期間末における総資産は775億6千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ89億1千万円の減少となりました。これは主に、売上債権が減少したことによりです。負債総額は525億9百万円となり、前連結会計年度末に比べ95億6千8百万円の減少となりました。これは主に、短期借入金が増加したことによりです。また、純資産は250億5千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億5千8百万円の増加となりました。以上の結果、自己資本比率は31.6%となり、前連結会計年度末に比べ4.0ポイント向上いたしました。

## (2) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ2億1千2百万円増加し、36億1千9百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は127億1千8百万円（前年同期は34億7千3百万円の支出）となりました。これは、売上債権の減少及びたな卸資産の減少等の資金増加要因が、仕入債務の減少等の資金減少要因を上回ったためであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は17億6千7百万円（前年同期は7億5千9百万円の支出）となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は107億4千4百万円（前年同期は48億9千4百万円の収入）となりました。これは主に、短期借入金及び長期借入金の返済によるものであります。

## (3) 経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社は中期経営計画 VISION2020（2016年3月期～2021年3月期）において「売上高 2,000億～2,200億円」及び「ROE 10%」の達成を目標に掲げ、これまでの3年間（2016年3月期～2018年3月期）を「成長に向けた事業インフラを整備する期間」、これからの3年間（2019年3月期～2021年3月期）を「事業の成長を実現する期間」と位置付け、取り組んでまいりました。

VISION2020の達成に向けた後半3年間のスタートにあたり、現時点における計画の見通しは以下のとおりとなっております。

今回、中期経営計画の指標として経常利益率を新たに加え、ROEの見通しは当初から5ポイント引き上げて15%といたしました。

	当初の目標値	現時点の見通し
売上高	2,000～2,200億円	2,000億円
経常利益率		3.5%以上
ROE	10%	15%

また、各事業の「売上構成比（経常利益率）」のイメージにつきましても次のとおり変更いたしました。

	当初の想定	現時点の想定
EC事業	60%（2%）	80%（2%）
PB事業	20%（10%）	8%（10%）
CN事業	20%（10%）	12%（10%）

売上構成比につきましてはEC事業における売上規模の拡大を勘案し、当初想定から引き上げ、これに対しPB事業及びCN事業は事業状況を鑑み、当初想定から引き下げております。なお、各事業の経常利益率につきましては、当初の想定から変更しておりません。

当社は VISION2020 の更にその先も見据え、収益性の高い事業へ引き続き注力することにより、企業価値の向上に取り組んでまいります。

「EC事業」は半導体及び電子デバイス事業を、「PB事業」は自社ブランド事業を、「CN事業」はコンピュータシステム関連事業をそれぞれ示しております。なお、現在のセグメント区分上、PB事業は半導体及び電子デバイス事業に含まれております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億8千5百万円であります。

(6) 従業員数

連結会社の状況

平成30年7月に株式会社ファーストの株式を取得し、連結子会社といたしました。これに伴い、半導体及び電子デバイス事業の従業員数が増加しており、当第2四半期連結累計期間末における当社グループの従業員数は、1,202名（前連結会計年度末比136名増）となっております。

なお、従業員数は就業人員数であります。

提出会社の状況

平成30年7月に、当社は連結子会社であるパネトロン株式会社を吸収合併いたしました。これに伴い、当社における半導体及び電子デバイス事業の従業員数が増加しており、当第2四半期累計期間末における当社の従業員数は、889名（前事業年度末比128名増）となっております。

なお、従業員数は就業人員数であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	25,600,000
計	25,600,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数（株） （平成30年9月30日）	提出日現在 発行数（株） （平成30年11月8日）	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,445,500	10,445,500	東京証券取引所 （市場第一部）	単元株式数 100株
計	10,445,500	10,445,500		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （株）	発行済株式 総数残高 （株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金 増減額 （百万円）	資本準備金 残高 （百万円）
平成30年9月30日	-	10,445,500	-	2,495	-	5,645

## (5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総 数に対する 所有株式数 の割合(%)
東京エレクトロン(株)	東京都港区赤坂五丁目3番1号	3,532,700	33.82
東京エレクトロンデバイス社員持株会	神奈川県横浜市神奈川区金港町1番地4 横浜イーストスクエア	421,917	4.04
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	327,400	3.13
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	253,200	2.42
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ 東京支店)	PALISADES WEST 6300,BEECAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	196,000	1.88
資産管理サービス信託銀行(株) (証券投資信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	169,500	1.62
日本マスタートラスト信託銀行(株) (役員報酬BIP信託口・75723口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	151,972	1.45
日本マスタートラスト信託銀行(株) (従業員持株ESOP信託口・75722口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	147,100	1.41
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口5)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	138,200	1.32
GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ 東京支店)	BANKPLASSEN 2,0107 OSLO 1 OSLO 0107 NO (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	111,600	1.07
計	-	5,449,589	52.17

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,442,900	104,429	
単元未満株式	普通株式 2,500		
発行済株式総数	10,445,500		
総株主の議決権		104,429	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬BIP信託口・75723口)が保有する当社株式151,972株(議決権の数1,519個)が含まれております。
- 2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(従業員持株ESOP信託口・75722口)が保有する当社株式147,100株(議決権の数1,471個)が含まれております。
- 3 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の当社株式400株(議決権の数4個)が含まれております。

## 【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東京エレクトロン デバイス(株)	神奈川県横浜市神奈川区 金港町1番地4 横浜イーストスクエア	100		100	0.00
計		100		100	0.00

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動(役職の異動)は、次のとおりであります。

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
代表取締役 執行役員専務 グローバルセールス統括本部長 EC BU/BUGM	代表取締役 執行役員専務 グローバル営業統括本部長	長谷川 雅巳	平成30年7月1日
取締役 執行役員専務 コーポレート管理統括本部長 経営企画センター長	取締役 執行役員専務 管理本部長 グローバルオペレーション支援本部長	佐伯 幸雄	平成30年7月1日
取締役 執行役員専務 CN BU/BUGM	取締役 執行役員専務 CN カンパニープレジデント	上小川 昭浩	平成30年7月1日
取締役 執行役員専務 PB BU/BUGM	取締役 執行役員専務 インレピアム カンパニープレジデント	篠田 一樹	平成30年7月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,606	3,872
受取手形及び売掛金	42,263	33,598
電子記録債権	1,566	1,888
商品及び製品	25,638	24,813
原材料	439	869
その他	6,912	4,536
貸倒引当金	-	23
流動資産合計	80,427	69,554
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	1,241	1,656
無形固定資産	258	2,050
<b>投資その他の資産</b>		
退職給付に係る資産	410	428
その他	4,182	3,945
貸倒引当金	41	66
投資その他の資産合計	4,551	4,307
<b>固定資産合計</b>	6,051	8,014
<b>資産合計</b>	86,478	77,568

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,497	9,700
短期借入金	21,065	14,546
1年内返済予定の長期借入金	3,096	222
賞与引当金	1,237	1,004
その他	8,222	8,485
流動負債合計	44,117	33,959
固定負債		
長期借入金	10,096	10,210
退職給付に係る負債	7,371	7,744
その他	492	594
固定負債合計	17,959	18,549
負債合計	62,077	52,509
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,495	2,495
資本剰余金	5,645	5,645
利益剰余金	16,234	16,752
自己株式	478	443
株主資本合計	23,897	24,450
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43	33
繰延ヘッジ損益	132	21
為替換算調整勘定	102	242
退職給付に係る調整累計額	338	258
その他の包括利益累計額合計	59	39
非支配株主持分	563	570
純資産合計	24,401	25,059
負債純資産合計	86,478	77,568

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	76,431	68,765
売上原価	68,151	59,381
売上総利益	8,279	9,383
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	2,874	3,039
賞与引当金繰入額	835	867
退職給付費用	373	475
その他	3,189	3,301
販売費及び一般管理費合計	7,273	7,682
営業利益	1,006	1,701
営業外収益		
保険配当金	41	41
その他	30	28
営業外収益合計	71	69
営業外費用		
支払利息	66	96
為替差損	-	252
その他	28	31
営業外費用合計	94	380
経常利益	983	1,390
特別利益		
固定資産売却益	-	0
負ののれん発生益	46	-
特別利益合計	46	0
特別損失		
固定資産売却損	-	0
固定資産除却損	6	1
投資有価証券評価損	-	20
特別損失合計	6	22
税金等調整前四半期純利益	1,023	1,368
法人税等	308	446
四半期純利益	715	922
非支配株主に帰属する四半期純利益	15	27
親会社株主に帰属する四半期純利益	699	894

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	715	922
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	10
繰延ヘッジ損益	135	110
為替換算調整勘定	16	146
退職給付に係る調整額	13	80
持分法適用会社に対する持分相当額	0	6
その他の包括利益合計	110	99
四半期包括利益	604	1,021
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	589	993
非支配株主に係る四半期包括利益	15	27

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,023	1,368
減価償却費	261	227
のれん償却額	-	8
負ののれん発生益	46	-
賞与引当金の増減額(は減少)	98	236
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	172	124
支払利息	66	96
為替差損益(は益)	147	893
投資有価証券評価損益(は益)	-	20
売上債権の増減額(は増加)	2,489	9,595
たな卸資産の増減額(は増加)	3,131	1,016
仕入債務の増減額(は減少)	633	1,177
未払金の増減額(は減少)	89	255
前受金の増減額(は減少)	909	978
未収消費税等の増減額(は増加)	57	1,105
未収入金の増減額(は増加)	76	945
前払費用の増減額(は増加)	365	254
その他	197	695
小計	2,873	13,760
利息及び配当金の受取額	3	4
利息の支払額	66	98
法人税等の支払額	536	948
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,473	12,718
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	50	86
有形固定資産の売却による収入	-	174
無形固定資産の取得による支出	90	22
投資有価証券の取得による支出	20	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	595	1,833
その他	2	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	759	1,767
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	5,203	7,169
長期借入金の返済による支出	48	3,235
自己株式の処分による収入	41	47
配当金の支払額	302	364
非支配株主への配当金の支払額	-	21
その他	0	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,894	10,744
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	6
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	664	212
現金及び現金同等物の期首残高	2,433	3,406
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,097	3,619

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	
(連結の範囲の重要な変更)	
当第2四半期連結会計期間において連結子会社でありましたパネトロン株式会社は、当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため連結の範囲から除外しております。	
また、当第2四半期連結会計期間において株式会社ファーストの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。	

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。	

## (四半期連結貸借対照表関係)

## 偶発債務

## (1)リース債務に対する保証

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
TOKYO ELECTRON DEVICE CN AMERICA, INC.	1百万円	0百万円

## (2)債権流動化に伴う買戻義務限度額

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
	1,224百万円	1,308百万円

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日または現金決済日をもって決済処理しております。なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	150百万円	210百万円
電子記録債権	19百万円	102百万円
支払手形	72百万円	84百万円

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月 1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月 1日 至 平成30年9月30日)
現金及び預金	3,297百万円	3,872百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	200百万円	252百万円
現金及び現金同等物	3,097百万円	3,619百万円

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

## 1. 配当金の支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月16日 取締役会	普通株式	313	30	平成29年3月31日	平成29年5月31日	利益剰余金

(注) 平成29年5月16日取締役会決議による配当金総額には、役員報酬BIP信託が保有する自社の株式に対する配当金4百万円及び従業員持株ESOP信託が保有する自社の株式に対する配当金6百万円が含まれております。

## 2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年10月27日 取締役会	普通株式	313	30	平成29年9月30日	平成29年11月30日	利益剰余金

(注) 平成29年10月27日取締役会決議による配当金総額には、役員報酬BIP信託が保有する自社の株式に対する配当金4百万円及び従業員持株ESOP信託が保有する自社の株式に対する配当金5百万円が含まれております。

## 3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

## 1. 配当金の支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年5月14日 取締役会	普通株式	376	36	平成30年3月31日	平成30年5月30日	利益剰余金

(注) 平成30年5月14日取締役会決議による配当金総額には、役員報酬BIP信託が保有する自社の株式に対する配当金5百万円及び従業員持株ESOP信託が保有する自社の株式に対する配当金6百万円が含まれております。

## 2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年10月29日 取締役会	普通株式	417	40	平成30年9月30日	平成30年11月30日	利益剰余金

(注) 平成30年10月29日取締役会決議による配当金総額には、役員報酬BIP信託が保有する自社の株式に対する配当金6百万円及び従業員持株ESOP信託が保有する自社の株式に対する配当金5百万円が含まれております。

## 3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	半導体及び 電子デバイス 事業	コンピュータ システム関連 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	68,468	7,963	76,431		76,431
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	68,468	7,963	76,431		76,431
セグメント利益	691	291	983		983

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	半導体及び 電子デバイス 事業	コンピュータ システム関連 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	59,653	9,111	68,765		68,765
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	59,653	9,111	68,765		68,765
セグメント利益	882	508	1,390		1,390

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

(企業結合等関係)

1. 連結子会社の吸収合併

当社は、平成30年5月14日開催の取締役会決議に基づき、平成30年7月1日付で完全子会社であるパネトロン株式会社を吸収合併いたしました。

(1) 取引の概要

結合当事会社の名称及びその事業の内容

(存続会社)

名称 東京エレクトロン デバイス株式会社

事業の内容 (半導体及び電子デバイス事業)

半導体製品、組み込みソフトウェア、一般電子部品、ボード製品の販売等

(コンピュータシステム関連事業)

ネットワーク機器、ストレージ機器、ソフトウェアの販売等

(消滅会社)

名称 パネトロン株式会社

事業の内容 半導体等の電子部品の販売等

企業結合日

平成30年7月1日

企業結合の法的形式

当社を存続会社、パネトロン株式会社を消滅会社とする吸収合併

結合後企業の名称

東京エレクトロン デバイス株式会社

その他取引の概要に関する事項

当社グループを取り巻く事業環境の変化に対応するため、当社グループにおける半導体及び電子デバイス事業の経営効率化を図り、経営資源を集中することを目的としております。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

## 2. 株式会社ファーストの株式取得

当社は、平成30年3月29日開催の取締役会決議に基づき、同日付で株式会社ファーストの株式取得に関する株式譲渡契約書を締結し、平成30年7月2日付で同社の株式を取得いたしました。

## (1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社ファースト

事業の内容 ファクトリーオートメーション向け汎用画像処理装置の開発・設計・製造・販売等

企業結合を行った主な理由

画像処理を通じた新たな付加価値の創造と事業拡大のため

企業結合日

平成30年7月2日

企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

結合後企業の名称

名称の変更はありません。

取得した議決権比率

100%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

## (2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれている被取得企業の業績の期間

平成30年7月2日から平成30年9月30日まで

## (3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	2,065百万円
取得原価		2,065百万円

## (4) 発生したのれんの金額及び発生原因

発生したのれん金額 529百万円

発生原因

取得原価が受入れた資産及び引受けた負債に配分された純額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しております。

償却方法及び償却期間 15年間にわたる均等償却

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月 1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月 1日 至 平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益	69円31銭	88円21銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	699	894
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	699	894
普通株式の期中平均株式数(株)	10,091,572	10,136,852

(注) 1 株主資本において自己株式として計上されている役員報酬BIP信託及び従業員持株ESOP信託が所有する当社株式は、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数

前第2四半期連結累計期間 353,893株 当第2四半期連結累計期間 308,555株

2 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

## (投資有価証券の売却)

当社は、平成30年10月9日の取締役会決議に基づき、当社が保有する投資有価証券の一部を売却いたしました。これに伴い、平成31年3月期第3四半期連結会計期間において投資有価証券売却益(特別利益)を計上する予定であります。

(1) 売却株式	当社保有の非上場株式1銘柄
(2) 売却株式数	1,355,993株
(3) 売却日	平成30年10月12日
(4) 投資有価証券売却益	207百万円

## 2 【その他】

第34期(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)中間配当については、平成30年10月29日開催の取締役会において、平成30年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	417百万円
1株当たりの金額	40円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成30年11月30日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月8日

東京エレクトロン デバイス株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 治彦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小林 圭司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京エレクトロンデバイス株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東京エレクトロン デバイス株式会社及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。